

全国から愛される 演劇文化をさらに



三度、感動を呼んだ 「いのちぼうにふろう物語」

9月4日から10月10日にかけて能登演劇堂で上演された「いのちぼうにふろう物語」。
全30回公演で、市内外から1万3,265人が訪れ、大盛況のうちに幕を閉じた。



すばらしい舞台をありがとう！



年を感じさせぬ仲代さんの熱演、感動しました。若手もすばらしく、重厚な芝居で東京から来たかいがありました。

力強く、美しい舞台。
大満足です。

前回は拝見しました。
さらに大きな感動を
ありがとうございます！



能登演劇堂で3度目の上演となった「いのちぼうにふろう物語」。今年12月で90歳を迎える仲代達矢さんが役者70周年を飾る舞台として挑み、気迫に満ちたセリフや、年齢を感じさせない立ち振る舞いで役者魂を見せつけた。

仲代さんが演じるのは、ならず者たちを見守る一膳飯屋の店主、幾造。その姿は、無名塾の主宰として後輩役者を育ててきた仲代さん自身を重ねているようにも見えた。

物語の終盤、幾造が外舞台から登場した捕り方役のエキストラに囲まれ、「まるで祭りだぜ」とセリフを吐き、散っていく姿は圧巻で、劇場内は拍手が鳴りやまず、観客は「感動で涙が止まらなかった」「すばらしい舞台」と絶賛した。

最終日の終演後、仲代さんは共に舞台に立ったエキストラに「本当にすばらしい動きで、物語の最後を締めくくっていただいた」と拍手を送り、公演を支えてくれた共演者やスタッフ、ボランティアに向けて「老骨にむちを打って舞台に立てたのは、皆さんのおかげ」と感謝し、感慨深い表情で舞台を後にした。

皆で盛り上げた 舞台裏

ロングラン公演を成功させる上で、市民ボランティアの協力は不可欠。今公演も会場スタッフや、エキストラに多くの市民が携わり、公演を支えた。中でもエキストラは、終盤の見せ場で登場する捕り方役で出演。かつらや衣装の装着、より良く見せる動きの確認などエキストラ同士、協力して乗り越えた。



祭りの一行（中島地区）が成功祈願



地元の味で歓迎



公演後に役者とエキストラがハイタッチ



エキストラに参加した皆さん



市長もエキストラに出演

心ひとつに、 舞台に立ちました



仲代さんの芝居が好きで、新聞のエキストラ募集の記事を見て応募しましたが、仲代さんと同じ舞台に立てて光栄です。

観客として舞台を見たときは、セリフ一つ一つに込められた意味を感じ、あらためて素晴らしい舞台だと感動しました。最後まで、みんなで協力してやりとげることができて胸が熱くなりました。



輪島市から
エキストラに参加
ス波 安夫さん

感謝を込めて、 無名塾公演をPR



無名塾の皆さんは長年、地域のにぎわい創出に尽くしてくれています。そんな無名塾の皆さんに感謝を込めて公演を盛り上げようと、住民

有志6人で「中島勝手に応援団」を結成しました。横断幕や顔出しパネル、観光列車「里山里海号」のヘッドマークを作り能登中島駅に設置しました。公演後も、訪れた人を楽しんでもらいたいです。



中島勝手に応援団
団長 石坂 智子さん

仲代さんがまいた 演劇の種が花咲く

演劇のまち誕生

日本演劇界の重鎮、仲代達矢さんと七尾市の出会いは昭和58年。仲代さんが家族旅行で旧中島町を訪れ、自然豊かな町と人々の人情に触れ、「ここで芝居ができれば」とつぶやいた。この一言が、旧中島町に演劇の種をまくことになる。

無名塾の中島合宿が始まると、町民の演劇に対する関心が芽生え、「演劇のまち」を掲げたまちづくりが進んだ。仲代さん監修の演劇専用ホール「能登演劇堂」がオープンしたのは平成7年のことだった。

能登演劇堂の名が全国へ

「小さな町の大きな挑戦」などと報じられて注目されたのが、平成9年の初のロングラン公演「いのちぼうにふろう物語」。当時人口8千人の町に、1カ月で約2万人が訪れ、客席は連日満席。住民自らが誘客に動かなくなった結果だった。

能登演劇堂の名を全国に轟かせたのは、能登半島地震からの復興を掲

げ、平成21年に能登限定で公演した「マクベス」。全50回の公演で、約3万3千人が訪れた。本物の馬が外舞台を駆け回り、毎回50人ものエキストラが兵士役で登場するシーンは能登演劇堂でしか実現しない圧巻的一幕だった。

演劇によるまちづくり

演劇によるまちづくりの構想には、能登演劇堂を活動拠点とした新しい町民文化活動の創出も盛り込まれた。町民劇団が誕生し、「地元の学校で演劇教育を」という機運が高まり、平成12年4月旧中島高校に普通科演劇コースが開設。その後、七尾東雲高校演劇科に引き継がれ、卒業生の中には無名塾に入塾する者もいた。

令和元年からは、日本大学芸術学部（学生たちが、無名塾のように中島町に滞在しながら、住民との交流をもとに作品を創作する「ノトゲキ」プロジェクトも続いている。仲代さんがまいた演劇の種が花を咲かせた証と言えるだろう。

学生たちの滞在制作 「ノトゲキ」



message

舞台芸術と出会わせてくれた中島町に恩返しがしたいという思いから始まった「ノトゲキ」。能登の魅力のな人たちと学生が出会うことで、能登でしか生まれない魅力的な作品や新しい演劇の形が生まれ、舞台芸術の未来と故郷七尾の未来が共に育つと、初回を終えたときに確信しました。

学生たちは、「能登が好きだ」「また来たい」と口を揃えます。今後も舞台芸術を志す学生と、七尾の人たちとの良き出会いの場になるよう応援したいです。そして、「演劇祭」のようなものを仕掛け、全国・海外から学生を呼び込んで、演劇で七尾を盛り上げたいと思っています。



中島町出身の舞台俳優
ノトゲキ発起人
滝腰 教寛さん

能登演劇堂は人々を魅了する 日本一の芝居小屋



× 特別対談

無名塾主宰 仲代達矢

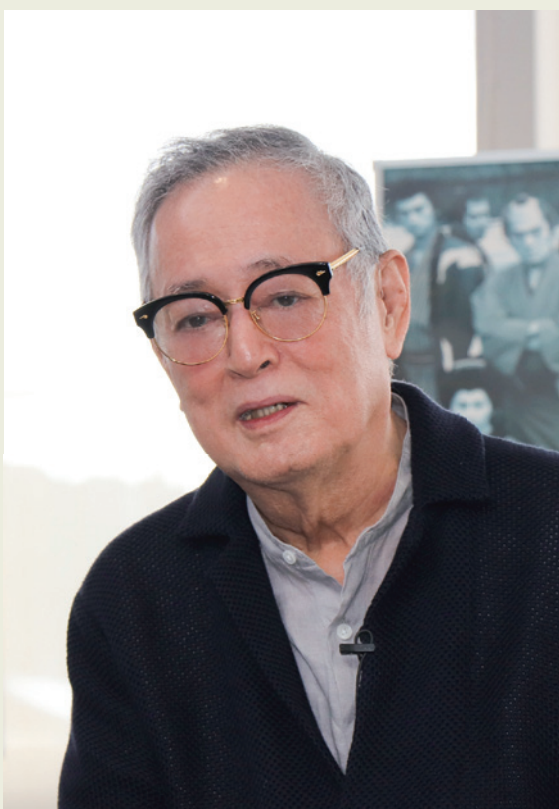
七尾市長 茶谷義隆

回は再々演なので、ものすごく訓練しましたし、けがをしないように気を張りました。無事終わってほっとしています。ただ、まだできたのではないかという思いは常にあります。

市長 私は、一度エキストラとして出演させていただきました。緊迫した最後の見せ場で、芝居を壊してはいけないと、緊張感を持って、演技させていただきました。

仲代 出演していただき、ありがとうございます。エキストラの皆さんは、毎日のように頑張ってくださいました。エキストラの皆さんの最後の頑張りでもっといい締めくくりができたと思っています。お客さんの感想の中には、地元の人とのつながりを感じて感動したという言葉もありました。

それから、我々が予想した以上のお客さんに来ていただいて、本当にうれしく思います。演劇堂のスタッフ、それから市の職員の皆さんがさま



ざまな場所へ足を運び、PRをしていただいたおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

市長 本場にすばらしい公演でした。今公演では、奥ゆかしい能登の人たちも、皆さん立ち上がって拍手を送っていました。

仲代 演劇の醍醐味は、お客さんの息づかいを感じられることと、最後の拍手です。今回は本場に皆さんが立ち上がって拍手をくださいました。

その様子に、つい涙が出ました。本場に演劇人で良かったと思っています。

市長 仲代さんの思いを受け継ぐ無名塾の役者さんについてはいかがですか？

仲代 亡くなった女房が「私たちの周りから日本を代表するような素敵な役者が、一人でもできればいいな」と言い、無名塾を始めたんですね。演劇の役者になることが一番難しいんですよ。劇場に来るお客さんを感じさせなきゃいけ

「いのちぼうにふろう物語」の公演を終えた、仲代達矢さんに公演の振り返りや、来年開催のいしかわ百万石文化祭2023に合わせて上演する「等伯―反骨の画聖―」の演出への思いを伺った。

市長 30回のロングラン公演、本当にお疲れ様でした。

仲代 毎日が緊張の連続でした。役者は80歳を過ぎると名優扱いされますが、今年の暮れには90歳になります。姿勢や声の調子とか、そういうものは衰えてきます。今

ないし、一番遠い席までセリフを届けなきゃいけないし。無名塾の方針は「生涯訓練」。うちの子たちは毎日訓練しています。

そろそろ若者たち自身で立ち上がって、私がいなくても無名塾を引き継いでやっていてもらいたいと思いますけれども。

市長 改めて、仲代さんにとって能登演劇堂はどういう場所ですか？

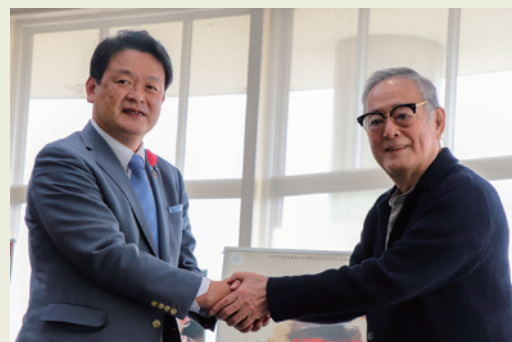
仲代 能登演劇堂は、日本一の芝居小屋だと思っています。無名塾にとって、こんなにすばらしいバックグラウンドがあることを感謝しています。「こんなところで芝居の稽古ができた」と言ったことから、劇場を建てようという話が出ました。「いや、それは大変ですよ」と初めは反対したんですが、その熱意によって演劇堂が建てられて。能登演劇堂とは、離れられない状況を作っていたかったです。私も無名塾もこの能登演劇堂の支えがあって、本当に幸せです。他の劇団から羨ましがられます。

劇場の運営は、いろいろ大変ですが、能登演劇堂は、一生懸命やっていただいて

います。私たちも地域の皆さんのご期待に応えるべく、年に一度、無名塾の全国公演は能登演劇堂からと決めています。この劇場が、末永く愛される場所であればと願っています。

市長 来年は、石川県で国民文化祭が開催されます。能登演劇堂では、長谷川等伯を題材とした公演を仲代さんの演出で予定しています。能登演劇堂を国内だけでなく、海外にも知っていただき、「演劇のまち」をさらに発信したいと思っています。これからもお力添えをよろしく願っています。

仲代 来年は91歳になるので控えめに演出をやらせていただくかと思っております。あの「松林図屏風」を描いた、等伯の人生を扱うとなると、同じ芸事に携わる者として、身の引き締まる思いがします。私たちが役者にも、役者としての闘いがあります。つまり、共演する相手役との闘いですね。都から遠く離れたこの能登の地に生まれ、養子の身の上という苦しい立場でありながら京の都にのびて絵筆一本で立ち向かいま



した。その心意気は相当なものがあったかと思っています。私が共感するのは、さまざまハンディキャップを、自分が向上するバネとして変えていったところです。そういうところに焦点を絞り、狩野派の権威に立ち向かっていった姿を描きたいと思っています。

市長 最後に市民に向けて一言メッセージをいただけますか？

仲代 私の第二の故郷である七尾市の皆さん。無名塾を応援してください。本当にありがとうございます。また来年もよろしく願っています。

来年秋。
国民文化祭で上演。
七尾の演劇をさらに。



文化絢爛 ぶんかけんらん
第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術文化祭
いしかわ百万石文化祭 2023
令和5年10月14日(土)～11月26日(日)

開催期間中公演予定

無名塾

等伯―反骨の画聖―
～国宝「松林図」誕生の物語～

来年、我が無名塾は、
七尾出身の絵師、
長谷川等伯を
主人公にした
芝居を演じます。
全国の皆様！
何卒ご期待ください。

演出

仲代達矢